

合掌の力

島根県 こうちようじ 弘長寺住職 もり た ゆう こう 森田裕光

今朝は合掌の力というお話です。

私が京都のお寺で修行中、父がクモ膜下出血で倒れ入院しました。郷里に帰り、私は母と交代で父の看病をすることになったのです。

そんなある日、私は繁華街の食堂で母と昼食をとりました。

料理が運ばれてきたので、私は合掌し、いつも修行道場でお唱えしている食事を頂くための短いお経を小声で唱えました。

そして「いただきます」と言おうとして顔を上げたところ母も合掌し、目をつむり、静かにお唱えをしていました。

母のお唱えが終わらないので、私は慌ててもう一度同じお経をお唱えすることにしました。二回もお唱えをしたので私はもうよいだろうと思い再び顔をあげましたら、母のお唱えはまだ延々と続いていました。

その合掌の姿の美しかったこと。

私は衝撃を受けました。

合掌とはこういうふうにするものだよと修行中の私が逆に母に教えられたのです。

私は仏教の基本である合掌を合掌くらい、と思い込んでいた自分が恥ずかしくなりました。

そして、「合掌が大きな力を持っていること」を母に教えてもらったのです。

その母の合掌の力ででしょうか、父はあっという間に回復し、一カ月で退院をいたしました。